

## 教育委員会委員長就任のご挨拶

石川県立看護大学 看護学部

峰松 健夫

去る2023年11月20日に開催されました理事会において、新規委員会の設置とその委員長就任をご承認いただきました。その後、理事の先生方と議論を重ね、委員会名を「教育委員会」とすることとなりました。歴史ある本学会においてこのような大役を仰せつかり、身に余る光栄と存じますとともに、責任の重さを痛感しております。

これに先立ち将来構想検討委員会では、紺家千津子委員長の下、2022年度より創傷治癒・創傷管理に関する教育動画の作成・公開を試行されて参りました。創傷治癒の基礎に関する初学者向けコンテンツと、創傷管理に携わる医療者向けのコンセンサスドキュメントの解説の二つが企画され、前者は【いまさら聞けないシリーズ】第1回「キズはなぜ湿らせて治すの？ Moist wound healingの歴史を知ろう」として、すでに下記のURLで公開されております。是非一度ご覧ください。

[https://www.jswh.com/youtube/series\\_1\\_public.html](https://www.jswh.com/youtube/series_1_public.html)

教育委員会ではこの企画を引き継ぎ、当面の活動の柱として参ります。当委員会の設置目的は、主に若手医療従事者、研究者等に向けて、創傷治癒・管理に関わる初歩的知識の普及を図り、広く臨床実践および研究の底上げを図るとともに、会員の増加に寄与すること、また、患者教育として創傷治癒に関する正しい知識を社会一般に発信することといたしました。また委員には、菅野恵美先生（東北大学・教授）、土肥輝之先生（日本医科大学・講師）、高橋聡明先生（東京大学・講師）、丹野寛大先生（東北大学・講師）にご就任いただきました。若い先生方を中心に、フットワークの軽い委員会としてまいりたいと考えております。

日本では少子高齢化がますます加速する中、施設や在宅などで創傷治癒を専門としない医療者が難治性潰瘍の管理に携わらねばならなかったり、患者さんやご家族等によるセルフケアが求められたりすることが増えてくると予想されます。正しい情報を提供することで医療者や患者さんを支援して参りたいと考えております。またこれらの情報は、創傷治癒に興味をもった若い医療者や研究者がさらなる深淵に踏み出す後押しにもなるものと期待しております。

まだまだ手探りの状態ではありますが、当委員会の活動へのご理解とご支援を何卒よろしくお願いいたします。



NEWS  
LETTER

日本創傷治癒学会

2024.01

No.139

### ●日本創傷治癒学会事務局

〒160-8582

東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学

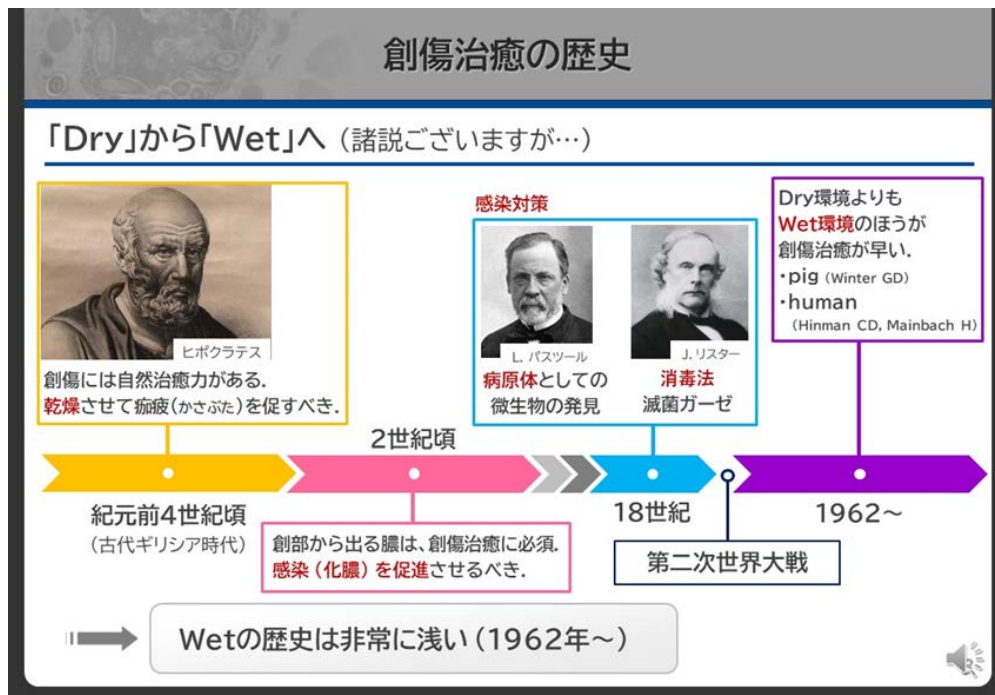
医学部形成外科学教室内

tel.03-3351-4774

fax.03-3352-1054

e-mail : info@jswh.com

URL : <https://www.jswh.com>



【いまさら聞けないシリーズ】  
第1回「キズはなぜ湿らせて治すの? Moist wound healingの歴史を知ろう」の一部

## WRRに会員の論文が掲載されました

会員の論文が Wound Repair and RegenerationのVolume31 Issue No.6 に掲載されました。論文名、会員の著者は下記の通りです。

投稿規程に関しましては、Wiley Online Libraryの本ジャーナルホームページの機関誌概要下にある濃緑色のナビゲーションバーより、<CONTRIBUTE> ⇒ <Author Guidelines> と進んでいただくか、以下のURLへアクセスして入手してください。

<https://onlinelibrary.wiley.com/page/journal/1524475x/homepage/forauthors.html>

なお、投稿方法は、ホームページからのオンライン投稿(要ログイン)となっております。

“Efficacy of wearable vibration dressings on full-thickness wound healing in a hyperglycemic rat model”, (Wound Repair and Regeneration, 31:6, P.816-826)

幅 大二郎 先生 (東京大学大学院医学系研究科 老年看護学/創傷看護学分野)  
 秦 齊 先生 (東京大学大学院医学系研究科 老年看護学/創傷看護学分野)  
 滝沢 知大 先生 (東京大学大学院医学系研究科創傷看護学分野)  
 峰松 健夫 先生 (石川県立看護大学 看護学部)  
 真田 弘美 先生 (石川県立看護大学)  
 仲上 豪二郎 先生 (東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 創傷看護学分野)



漢方製剤にとって「良質」とは何か。その答えのひとつが「均質」である、とツムラは考えます。自然由来がゆえに、ひとつひとつに個性がある生薬。漢方製剤にとって、その成分のばらつきを抑え、一定に保つことが「良質」である。そう考える私たちは、栽培から製造にいたるすべてのプロセスで、自然由来の成分のばらつきを抑える技術を追求。これからもあるべき「ツムラ品質」を進化させ続けます。現代を生きる人々の健やかな毎日のために。自然と健康を科学する、漢方のツムラです。

良質。均質。ツムラ品質。



株式会社ツムラ <https://www.tsumura.co.jp/> 資料請求・お問合せは、お客様相談窓口まで。

医療関係者の皆様 tel.0120-329-970 患者様・一般のお客様 tel.0120-329-930 受付時間 9:00~17:30(土・日・祝日は除く) 2021年4月制作 (審)